

2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [横浜市立市ヶ尾中学校] 担当教諭名 [佐倉 美里] (プロジェクトチーム 30名)
 相手国・地域 [ケニア]
 海外学校名 [Bumira Secondary School] 担当教諭名 [Vincent Mwash / Osolo Felix / 川畑 達郎(JICA)]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	アートマイルプロジェクト	生徒会昼休み・放課後活動	15

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Let's hand the beautiful planet to the future, take over the beautiful nature to the next generation.
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	自分たちの手で、プラスチック汚染のない美しい地球を次の世代に渡していこう、そのための行動を起こそう



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
地球規模の問題に対して、ただ知って終わるだけではなく、その原因と課題、解決策をセットで生徒に考えさせ、さらに相手国と共有できたことは、大きな成果である。そのうえで、メッセージを考え壁画をつくれたので深みのあるプロジェクトになった。	中学校の成長段階では教員がまず問題意識をもち、強い信念とリーダーシップを発揮して生徒を導いていかなければならないが、一方で生徒が自立的に継続して活動に取り組めるように、プロジェクトの組織づくりから生徒に考えさせることも必要だった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
ケニアが世界のどこにあるのか示せなかった生徒たちが、自らプラスチック問題だけでなく、ケニアやアフリカの廃棄物問題についてまで調べ文化祭で発表し、お客さんたちに熱心に伝えている姿を通して、自分たちでも世界の問題を解決するためにできると気づくことができた。	生徒とともにプラスチック問題に取り組むことで、教員自身がその問題について世界規模で考えることができるようになった。大人である私たち自身がまず、世界で起きていることを自分たちの目で解釈し、生徒に伝え考えさせることが大切であると気づくことができた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	7月	互いにフォーラム上に自己紹介動画をアップした。	相手校の生徒の顔が分かり、これからの活動に期待をもつことができた。	放課後
共有 テーマ学習	9月	日本とケニアにおけるプラスチック問題について、ジグゾー法を使って資料を分担して読み込み、原因と解決策について学習した。	知っているようで知らなかったプラスチック汚染問題について関心を示すと同時に何か行動を起こさなくては、という想いが芽生えた。	放課後
融合 メッセージ作成	10月	テレビ会議を通して、相手校の抱えるプラスチック問題を知ることができた。そこで放課後にチームで集まって、皆の意見をもとにメッセージを考ええた。	テレビ会議でプラスチック問題が日本とケニアの共通の深刻な問題であることに気づいたことで地球的視点で物事を解決しようとする姿勢が見られた。	放課後
創造 壁画制作	11月 12月	メッセージをもとに、プロジェクトチームと美術部で壁画に必要なモチーフとデザインを考え、描きあげた。	自分たちのアイデアが目に見える形になっていったことに感動している様子だった。	放課後
評価 振り返り 自己評価	3月	壁画を待っている間、相手校の様子を伝えた。休校後、卒業式の日壁画が到着したので、校内に展示した。	すぐその自分たちの生活が世界規模の問題につながっていることを日々の生活の中で感じてくれているようだった。	放課後

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とでもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	プラスチック汚染問題を学習する過程で、自国の他者を重んじて気を配る文化がプラスチックによる過包装を招いていることを知った。
異文化を理解する力	4	一緒に取り組む相手校の普段の学校生活の写真やスカイプの映像から自分たちの暮らしとは全く異なることを実感していた。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	5	プラスチックによる海洋にとどまらない地球規模の汚染について、その問題点と解決策について自分たちで資料を読み、まとめていた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	テレビ会議を通して自分たちで考えたプラスチック汚染に対する解決策について相手の考えも踏まえたうえで、英語で発信できていた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	日本だけではなくケニアも含めた地球規模の問題の全体を知ることが大きな学習の流れとなったため、批判的思考は次回に期待した。
主体的に考え行動する力	5	文化祭でも自分たちで考えた新聞をつくって、来たお客さんに配るなど、プラスチック問題を広く知ってもらうための行動を起こしていた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	スカイプ、文化祭、広報、制作などのチームに分かれて活動していたが、チーム内で最適のコミュニケーションをとっていた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	問題を解決するためには、まず自分たちから行動したい、との思いを抱いて、それを「未来につなぐ」ことが大切だと言葉にできていた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	3	壁画が来る前に休校になってしまったが、各自の日々の生活の中で学習したことを実践してくれている。